

昭和二十九年八月一日、 飯山市誕生

昭和二十九年八月一日、長野県下十三番目の市として飯山市が誕生しました。市制施行時の人口は三万二五八九人、戸数六〇六三戸、面積一二五・五三平方メートル。さらに昭和三十一年九月三〇日には、旧太田村、岡山村を編入する第二次合併が行われ、人口四万人を擁する市となりました。

その後、経済成長の時代の波を背景に、幾多の難事を克服し、新市建設計画実施に向けて着実に歩み、市としての基盤が形成されました。



1町6力村合併調印式 (S29年)



太田・岡山との第2次合併調印式 (S31年9月19日)

1954 ~ 1964

(昭和29年~昭和39年)

合併祝賀会 (S29年)



History of Iiyama	1954~1964 (昭和29年~昭和39年)
昭和29年 8月 1日	● 飯山市発足(飯山町、秋津村、柳原村、外様村、常盤村、木島村、瑞穂村が合併)
9月 15日	● 篠井恵四郎氏が初代市長に就任
昭和30年 10月 5日	● 神明が丘にスキーリフト建設
昭和31年 8月 1日	● 飯山市上水道通水式
9月 30日	● 太田村、岡山村、飯山市に合併
昭和32年 1月	● 30余年ぶりの大雪、飯山線20日間運休
昭和33年 9月 15日	● 荻原克巳氏が2代目市長に就任
昭和34年 3月	● 県町、曙町が発足
8月 14日	● 台風7号襲来、柏尾橋流出、樽川堤防決壊などで被害4億円超える
昭和35年 1月	● 大雪、飯山線25日間運休
8月 1日	● 栄町発足
12月 24日	● 戸狩スキー場にリフト完成
昭和36年 2月	● 雪のため飯山線10日間運休
7月	● 統合中学3校案をめぐって市民デモなど紛糾
昭和37年 9月 15日	● 春日佳一氏が3代目市長に就任
12月 15日	● 黒岩スキー場にリフト完成
12月	● 北竜湖スキー場オープン
昭和39年 6月 16日	● 新潟地震で飯山市にも被害
12月 20日	● 北飯山スキー場オープン(51年閉鎖)



台風7号襲来 樽川堤防決壊、柏尾橋流出、木島地区で床上浸水517戸。給水状況(S34年8月)



流失した柏尾橋(S34年8月)



戸狩スキー場のリフトは昭和35年12月24日に完成



統合中学校3校案と住民の要求する2校案が鋭く対立。デモ、用地の不売など統合中学校建設をめぐって紛糾が続いた(S36年7月)



城山に市民会館建設(S36年~37年)



酪農の共同経営を目指す藤沢実験農場の開墾作業(S36年6月)



雪のカーニバル(S36年)



市街地で雪山をなくす運動始まる(S38年2月)

『とり入れも早くすませて今年も静岡へ出かけましょう。飯山職安へは次のように求人申込みがありました。農耕みかん取り=静岡、神奈川男女とも400名、月収手取4,000~6,000円、10月末から翌3月末迄。みかん缶詰工=静岡、四国男3名、女60名月収手取3,000円、11月下旬から翌2月末日まで。』(飯山市公民館報昭和31年10月5日号より)



わら製品不振で、冬期は出稼ぎに

豪雪地から スキー観光のメッカへ

昭和四十二年、飯山市は地方財政再建法の適用を受け、自治体として倒産に当たたる事態に陥りました。市が行う事業は国の管轄下に置かれ、独自の施策を展開できない苦難の時代が続きました。

一方、観光面では、民宿スキー場の発展や斑尾高原の開発により、観光客の入込数が伸び始め、出稼ぎに依存していた地域の雇用情勢が大きく変わりました。また、ジャンプ台の完成や消雪・パイプの整備など、それまで厄介者だった雪を前向きに活用・克服していこうとする動きが目立ちました。



大関橋竣工 (S40年12月24日)



豪雪で、市街地でもわき道では、2階の高さまで雪が降り積もった。国鉄飯山線も運休が続出。10日間桑名川以北が全面運休、通勤、通学の足がストップし、生活物資の輸送、エノキダケなど農産物の搬出に大きな支障を来した (S49年1月)

1965 ~ 1974

(昭和40年～昭和49年)

斑尾山麓開発道路 飯山～沼池が開通し、斑尾高原の発展に期待集まる (S45年11月)



History of Iiyama	1965~1974 (昭和40年~昭和49年)
昭和41年 2月	● 全国高等学校スキー大会で飯山北高・飯山南高がアベック優勝
昭和42年1月12日	● 大雪で飯山線に国鉄初のロキキマロキ出動 この年豪雪となる
昭和42年	● 飯山市が地方財政再建法の適用を受ける
昭和44年 7月 5日	● 集中豪雨で小河川氾濫、被害7億円
12月	● 神明が丘に70m級ジャンプ台完成
昭和45年11月 9日	● 斑尾山麓開発道路開通
昭和46年 1月	● 金山区発足
12月	● 屋敷、柳久保部落、集団移住で解村
昭和47年 3月19日	● 長野~飯山「さよならSL」運転
3月	● 沓津部落、集団移住で解村
9月	● 南善寺部落、集団移住で解村
11月	● 田草部落、集団移住で解村
12月 1日	● 斑尾高原スキー場オープン
昭和48年 2月	● 県道飯山停車場線(佐々木ラジオ~昌和ガラス間)200m初の消雪パイプ好成績
	● 全国高等学校スキー大会で飯山南高7連覇(47年大会は雪不足により中止)
3月31日	● 財政再建予定より1年早く達成
10月31日	● 北峠部落、集団移住で解村
12月13日	● 戸狩小境スキー場オープン(58年閉鎖)
12月	● 飯山国際スキー場オープン(平成13年9月閉鎖)
昭和49年 1月 1日	● 飯山照丘高校発足
1月	● 豪雪、除雪費1億円超す
8月 1日	● 市制20周年記念式典、市民憲章、市の木ブナ、市の花ユキツバキ制定
12月 6日	● 大阪市とスキー姉妹都市に



大雪で線路が唯一の通路(S42年)



できたての70mジャンプ台で大会(S45年)



市内初の消雪パイプが大きな効果をあげた(S48年2月)



飯山線からSLの姿が消えた日(S47年3月19日)



インターハイで南高7連覇達成(S48年)

大阪発 二二時二五分

「スキー列車戸狩一大阪間を往復する直通急行「第2ちくま」が、さる25日に初乗り入れました。この「第2ちくま」は、1月8日まで毎日、9日からは土曜日と祝祭日に運転されることになっており、これにより市内の民宿をおとずれるスキーヤーはますます多くなることでしょう。また「第2ちくま」の時刻は、下り大阪発21時25分、戸狩着8時32分、上り戸狩発20時33分、大阪着6時40分です。」(市報いよいよ昭和42年1月号より)



自然災害に翻弄された十年 住民参加型の イベントが芽生え

豪雪、冷害、台風、大水害……。昭和五十年代は、毎年のように襲い来る自然災害に翻弄され続け、市民の身も心も疲弊し切った時代でした。いつ果てるとも知れない自然の脅威が市民生活にも暗い影を落としました。

しかし、身を潜めて、ただ杳然としていたわけではありませんでした。飯山どんとこい祭りやいいやま菜の花まつりが初めて開催されるなど、地域を何とか盛り上げていこうとする力強い動きが見られた年代でもありました。



市道初の消雪パイプがお目見え。交通渋滞解消に大きな役割を果たした(S50年、福寿町)



豪雪により千曲川護岸工事現場で雪おおい屋根がつぶれ、死者4人、重傷2人の大惨事が発生(S56年1月27日)

1975 ~ 1984

(昭和50年~昭和59年)

自衛隊の協力を得て市街地の排雪(S51年2月)



History of Iiyama	1975~1984 (昭和50年~昭和59年)
昭和50年 1月	● 市役所通りに市道初の消雪パイプ
9月 4日	● 飯山仏壇が国の伝統的工芸品に指定
昭和51年 1月24日	● 豪雪で自衛隊出動
6月11日	● 内山紙が国の伝統的工芸品に指定
9月	● 冷害で農作物に深刻な被害
昭和52年 1月	● 豪雪、2月7日には飯山試験地で2m15cmに
5月20日	● 上水道に吉水源加わる
昭和53年 9月15日	● 小野沢静夫氏が4代目市長に就任
10月15日	● やまびこ国体秋季大会、飯山市ではウエイトリフティング競技開幕
昭和55年 7月 7日	● 婦人服メーカーが工場誘致条例により初めて飯山進出を決め調印式
7月23日	● 第1回飯山どんとこい祭り開催
9月	● 冬のくらしを明るくする条例制定
10月	● 冷害で水稲を中心に10億円の被害
昭和56年 1月30日	● 豪雪で自衛隊250人出動
8月23日	● 台風15号災害。9月4日には台風18号災害。両台風の被害11億8千万円に
昭和57年 3月30日	● 国鉄と鉄道建設公団が北陸新幹線駅ルート発表。飯山では「祝・新幹線駅飯山に決定」の横断幕を掲げ、市庁舎前で集会
9月12日・13日	● 台風18号襲来。樽川堤防が決壊し、木鳥地区中心に70億円を超える大被害 ● 水上団地に初のソーラー融雪システムの市営住宅建設
昭和58年 9月29日	● 台風10号襲来。千曲川堤防が柏尾橋上流で3カ所決壊し、常盤地区中心に50億円を超える大被害
昭和59年 2月	● 大雪、史上2位の豪雪災害
2月19日	● 商工会青年部主催第2回雪像づくりコンテスト飯山南高グラウンドで開催(1回目は各地区分散出品)
5月13日	● 第1回いいやま菜の花まつり開催
6月18日	● 国道117号など国道整備で住民総決起大会
11月 1日	● 市制30周年記念式典・市役所新庁舎落成式
12月	● 斑尾サンパティックスキー場オープン



昭和57年9月12日、台風18号は本州を縦断、各地に強い雨を降らせた。13日千曲川の水位が9.6mに達し、逆流によって樽川堤防が決壊、木鳥全地区が泥沼の底に沈んだ



台風18号直撃し、樽川堤防3カ所決壊。木鳥地区で浸水世帯700戸に(S57年9月13日)



台風10号による常盤・柏尾水害。千曲川堤防が決壊し、被害額は55億円に達した。津波のように流れ込む濁流は、多数の家畜の生命を奪い、前年の木鳥地区の悪夢が繰り返された(S58年9月29日)



新幹線駅ルート発表に沸いた(S57年)



りんごの木を掘る。59年は昭和20年に次ぐ史上2位の豪雪災害。4月1日現在の積雪量は、羽広山で4mを超えるなど異常残雪となり、農業被害は深刻だった



市庁舎起工式でくわ入れる小野沢市長(S58年8月13日)



雪像づくりコンテスト(S59年2月19日)

「7年ぶりの豪雪だった昨年に引き続いて、今年も平年を上回る豪雪で、道路、公共施設の除排雪費がかさみ、1月末には、当初計上した道路除雪費3,000万円を使い果たし、苦しい市財政を、更に圧迫しています。1月末現在の除雪対策見込額は、5,544万円でした。主なものは、道路の除排雪経費、2,908万円、学校・保育園など公共施設の雪おろし人夫賃、排雪等の経費、1,067万円などとなっているほか…」(市報いいやま昭和50年2月号より)

五千五百万円消える



急速に進んだ 幹線道路の整備 新幹線早期着工へ 住民パワーが爆発

昭和六十年代は、市内を南北に縦貫する国道一一七号バイパスや、国道二九二号有尾バイパス・富倉トンネルなど市内の主要幹線道路の整備が急速に進みました。また、下水道も一部の地域で使用が始まるなど、快適な生活環境整備に向けた一歩を踏み出した十年だったといえます。

一方、北陸新幹線長野以北の早期着工を求めて、大規模な住民総決起大会などが繰り返し開かれました。地元の熱意を中央に届けるために、住民パワーが結集した年代でした。



岡山国営農地開発第1回引き渡し式(S61年7月8日)



無散水消雪歩道が市街地で稼働(S62年冬から)

1985 ~ 1994

(昭和60年~平成6年)

北陸新幹線飯山駅ルート実現緊急住民総決起大会に8,000人。飯山駅ルートがはずされた運輸省試案に対し、計画どおりの建設を要請する怒りの大集会となった(S63年8月16日)



History of Iiyama	1985～1994 (昭和60年～平成6年)
昭和60年 1月 7日	● 大雪、飯山試験地で1月としては観測史上3位の2m15cmの積雪
昭和61年 8月 5日	● 国道292号有尾バイパス完成
11月 8日	● 国道117号飯山バイパス完成
11月27日	● 千曲川・樽川河川激甚災害対策特別事業完了
昭和62年 1月	● 新町などで無散水消雪歩道システム稼働
12月14日	● 国道117号バイパス湯滝～柏尾橋間完成
昭和63年 7月 9日	● 木内四郎さんが初の名誉市民に
8月16日	● 新幹線飯山駅ルート実現で8千人の緊急住民総決起大会
平成元年 1月	● 雪不足でスキー場困惑
9月	● ふるさと創生1億円は水資源調査に充てることに決定
10月31日	● なべくら大橋完成
平成2年 4月	● 飯山市が新過疎法の指定地域に
6月 2日	● 新幹線飯山駅ルート実現住民総決起大会
9月15日	● 小山邦武氏が5代目市長に就任
平成3年 4月27日	● 千曲川上流上今井地籍産業廃棄物埋め立て反対住民大会
8月 7日	● 国道117号飯山バイパス綱切橋以南完成
8月27日	● 飯山市、脱スパイクタイヤ地域指定受入れ
10月 5日	● 国道292号富倉トンネル開通
平成4年 1月18日	● 宮崎市定さんが2人目の名誉市民に
6月14日	● 新幹線長野以北早期着工実現で1万1千人の住民総決起大会
6月24日	● 新幹線長野以北早期着工実現で中央大会
12月 6日	● 湯滝温泉オープン
12月12日	● 国道117号バイパス大関橋～柏尾橋間開通
12月	● 関田山麓リゾート開発を断念
平成5年 4月11日	● 新幹線長野以北早期着工実現住民総決起大会
9月	● 冷害で水稲などに被害
平成6年 7月30日	● 市制40周年記念式典
7月・8月	● 記録的な干ばつ



鍋倉山現地踏査(S62年4月16日)。鍋倉はブナ林伐採計画、リゾート開発計画にと揺れた



千曲川上流産業廃棄物処理施設建設反対で吉村知事へ陳情。150人もの陳情団が県庁を訪れた(H2年)



さよなら旧綱切橋。新橋の完成により、55年間に及ぶ役目を終えた。橋と同じ長さの長大のり巻きを作り、お別れ(H2年11月)



戸狩特定環境保全公共下水道通水式。10年に及ぶ長い間、地元主導型で事業の推進を図り、地元関係者にとって喜びの1日となった(H3年12月6日)

飯山～東京 北陸新幹線陳情リレーマラソン。延べ300人の熱意と汗が染み込んだタスキは、陳情書とともに関係者に手渡された(H5年5月22日～24日)



サケ一万匹を清川へ

『清川でのサケの放流も、3年目を迎えました。清川にサケをよびもどす会と秋津小学校が行っているこの放流が行われたのは3月16日。1万粒の卵をふ化させ、約半分は各教室で飼育しました。放流式では、参加者全員で文部省唱歌「ふるさと」を歌った後、順番に清川へ放します。静間橋下流を放立とうとする稚魚を、いつまでも目で追う児童が見られました。』
(市報いよいよ昭和60年4月号より)

将来への展望拓く 新幹線、高速道路 生活面のインフラ整備も 急速に進んだ

北陸新幹線長野以北の新規着工決定や上信越自動車道の開通に代表されるように、この十年は、まさに飯山市が高速交通時代に突入していく幕開けの時代となりました。

また、上水道水源の千曲川からの全面脱却および下水道の普及により、生活の質の向上が図られました。

一方、グリーンツーリズムの先進地としての地位確立や『ながの飯山国体』の成功などが、地域に将来への明るい希望と自信をもたらしてくれました。



北陸新幹線長野以北早期着工実現住民総決起大会。炎天下の城北グラウンドに住民1万人が集結。北陸新幹線実現への熱い思いをぶつけた(H8年7月21日)



グリーンツーリズムの拠点施設、『なべくら高原森の家』がオープン。市民インストラクターによる体験メニューの提供が特徴(H9年7月1日)

1995～2004

(平成7年～平成16年)

西幹線が全線開通。市街地西部を迂回し、替佐～静岡バイパスと藤ノ木の国道292号を結ぶ(H9年12月7日)



北陸新幹線長野～上越間の建設工事始まる(H10年3月28日) 18

History of Iiyama	1995～2004 (平成7年～平成16年)
平成7年 6月23日	● 3人目の名誉市民に長谷川青澄さん
平成8年 4月24日	● 関屋地区産業廃棄物処理施設建設反対市民協議会が発足
7月21日	● 北陸新幹線長野以北早期着工実現住民総決起大会
8月12日	● 飯山市水源問題協議会が発足
12月25日	● 北陸新幹線長野～上越間がフル規格による新規着工区間に決定
平成9年 3月21日	● 飯山公共下水道一部使用開始
6月15日	● 柳原で産業廃棄物処分場建設反対シンポジウム
7月 1日	● なべくら高原森の家オープン
9月26日	● 替佐～静間バイパス開通
12月 7日	● 西幹線全線開通
平成10年2月10日～15日	● いいやま国際雪像芸術祭開催
3月28日	● 北陸新幹線長野～上越間建設工事が始まる
平成11年 2月 7日	● 第48回インターハイで飯山南高等学校が史上初の男女アベック優勝を達成し市内パレード
7月26日	● 北陸新幹線飯山トンネル建設工事富倉工区本坑発進式。本坑掘削に着手
平成13年2月18日～21日	● 第56回国民体育大会冬季大会スキー競技会「ながの飯山国体」が開催
9月	● 信濃平・国際スキー場が閉鎖に
平成14年2月5日～9日	● 第51回全国高等学校スキー大会で飯山南高が男子総合優勝、北高が女子準優勝
2月8日～	● ソルトトレイク五輪に野田鉄平さんと山田大起さんが出場
3月25日	● 上水道水源、千曲川から脱却
3月31日	● 長野電鉄木島線77年の歴史に幕
4月 1日	● 飯山市ケーブルテレビ局が開局
9月15日	● 木内正勝氏が6代目市長に就任
平成15年 2月 6日	● 飯山市・木島平村・野沢温泉村合併問題研究会設立
平成16年 3月31日	● 飯山市・木島平村・野沢温泉村合併問題研究会解散
4月 7日	● 飯山市・野沢温泉村合併研究会設立



いいやま国際雪像芸術祭。世界14カ国の芸術家が、腕を競った(H10年2月10日～15日)



インターハイで飯山南高校が大会史上初の男女アベック優勝を達成。市内を凱旋パレード(H11年2月7日)



第56回国民体育大会冬季大会スキー競技会「ながの飯山国体」開催。市民の「おもてなし」の気持ちが、選手・役員・観客を温かく出迎えた(H13年2月18日～21日)



市民が長年待ち望んだおいしい水道水。市内各地での水源開発が実を結び、上水道水源が千曲川から全面的に脱却することができた(H14年3月25日)



飯山市の高度情報化を担う情報通信基盤として、飯山市ケーブルテレビ局が開局(H14年4月1日)



利用者の減少が続き、恒常的な赤字に陥っていた長野電鉄木島線が、77年の歴史に幕を下ろした(H14年3月31日)

『西幹線の曙町～藤ノ木間がほぼ完成し、平成9年12月7日に開通式が行われました。区間総事業費は20億2000万円。開通により、秋津の替佐～静間バイパスから市街地の西部を迂回し、藤ノ木の国道292号に至る西幹線も全線が開通。豊田飯山インターから、信濃平、戸狩温泉、なべくら高原などの観光地へ向かう重要な路線として、また住民の生活道路や農産物の流通路として、期待されています。』(市報いいやま平成9年12月号より)



S52年、奈良沢西田団地内道路として着工以来20年を要し開通

二十億二千万円